

## ハバメクラチビゴミムシ *Trechiana habei* (S.Uéno)

### 【選定理由】

洞窟性の種で、豊橋市東部の蛇穴ならびに新穴および周辺の石灰岩地帯にのみ分布する、著しく分布域が狭い種である。最も主要な生息地である蛇穴では、1980年代までは比較的容易に発見することができたが、1990年代後半からは発見が極めて困難になっており、洞窟内の環境も悪化している。加えてマニアによる過剰採集やトラップの放置なども脅威となっている。

### 【形態】

体長 4.9~5.5mm。体色はアメ色で艶がある。複眼は退化し、わずかに痕跡が認められるのみ。前胸背は垂心臓形で後角毛がある。上翅は長卵型。*Trechiana* 属の種は互いに非常によく似た種が多く同定にはオス交尾器を精査する必要があるが、本地域に生息するのは本種のみである。

### 【分布の概要】

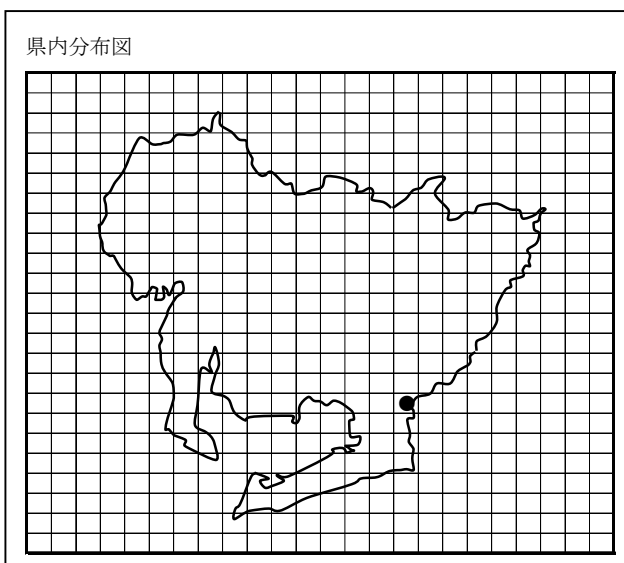
#### 【県内の分布】

豊橋市の蛇穴および新穴の特産種。蛇穴、および新穴洞内以外でも周辺の地下浅層から採集されたという未確認の情報があり、また人が入洞不可能な洞窟深部や小さな洞窟にも生息している可能性があるため、実際には豊橋市東部から県境にかけての石灰岩地帯を分布域としていると思われるが詳細は不明。

#### 【世界および国内の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

洞窟性の種で、洞窟内の地中、石や朽木の下などから発見される。洞窟というきわめて特殊な環境に著しく適応した種である。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

主要な生息地であった蛇穴は、洞内が乾燥化している。さらに入洞者の無知、マナー悪化のため、洞内でたき火、発煙筒などを焚いた形跡がある。また一度に多人数が入洞してのイベントなども行なわれている。こうした行為による直接的な影響かどうかは不明ながら、この数年蛇穴での発見は極めて困難になっている。さらに、近年はマニアによる過剰採集や洞窟性昆虫の採集を目的としたトラップの放置などが脅威となっていると推測される。新穴については現在、入り口が閉鎖されており、また調査には高度なケービング技術を要するため最近の生息状況は未調査である。

### 【保全上の留意点】

蛇穴の環境をこれ以上悪化させないことが第一である。蛇穴は縄文前期の遺跡があることから国指定の天然記念物に指定されているが、入洞に規制はない。今後各方面の関係者、専門家を交えて、洞窟動物の保全対策について検討する必要がある。

### 【特記事項】

本県にのみ生息する特産種であり、県内の生息地の消失は、種の絶滅に直結する。

### 【関連文献】

Uéno, S., 1984. Studies on the Japanese Trechinae (II). Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, (B), 21: 29-37.  
岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)